

1. 実況上の着目点

- ① 華中付近に熱帯低気圧があつて北西進。熱帯低気圧に向かつて流れ込む下層暖湿気の影響により、南西諸島では1時間20～30mmの雨量を解析、日本海西部付近では、1時間60～80mmの雨量を解析、雷を検知。
- ② オホーツク海に低気圧があつて東北東進。低気圧から前線が東北地方にのびる。東日本では、日本のほるか東に中心を持つ太平洋高気圧の縁辺から下層暖湿気が流れ込み、1時間に20～30mmの雨量を解析。
- ③ マリアナ諸島付近には、台風第13号があつて、発達しながら北西進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の熱帯低気圧は、12日朝にかけて華中付近を北西に進み、その後衰弱する見込み。南西諸島では、熱帯低気圧や1項③の台風周辺の下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となるため、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。また、気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。南西諸島では13日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、強風や高波、落雷や突風に注意。
- ② 1項③の台風は、13日にかけて発達しながら日本の南を北西進し、14日以降、南西諸島に接近する見込み。南西諸島や九州南部では台風周辺からの下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となるため、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。また、南西諸島では、台風の接近により非常に強い風や猛烈な風が吹いて、大しけや猛烈なしけとなる所がある。南西諸島では14日は、暴風や高波に厳重に警戒し、南西諸島や九州南部では、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒、落雷や突風に注意。また、西日本の太平洋側や小笠原諸島では14日は、強風やうねりを伴った高波に注意。
- ③ 本州付近は14日にかけて、500hPa 5880m以上の背の高い高気圧に覆われる。西～東日本及び東北地方では、晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症に注意(熱中症警戒アラートを参照)。また、日射による昇温で、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。西～北日本では14日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、降ひょうに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ①雨量(06時からの24時間)：関東甲信100mm。②波浪(明日まで)：沖縄5、小笠原4、九州南部・奄美3m。③高潮(明日まで)：東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「台風第13号に関する情報(総合情報)」を05時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図